

結成20周年  
新たな大躍進  
に向け出発!

# 月刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番  
(公) 043 (222) 7207 番

99.12.2 No. 5055

# 貨物への会社間格差粉碎へ!

年末手当獲得、貨物低額回答打破! 12月ダイ改合理化粉碎!

11・25動労千葉総決起集会 - 神田パンセにて勝ちとられる!

年末手当獲得、貨物低額回答打破! 一二月ダイ改合理化粉碎  
一一・二五動労千葉総決起集会



会が、東京・神田パンセにおいて組合員七〇名の結集により開催された。

## 第二の分割・民営化情勢と対決しよう!

集会は開会后、冒頭、主催者を代表して、布施副委員長が、  
①、年末手当について、会社間格差のない支給を求めた闘いであり、②、強制配転者の原職奪還を含めた、一二月ダイ改闘争として闘い抜かれていく。貨物をめぐる状況は、六年連続赤字・東北本線の土砂崩壊などの発生により、対計画三〇億円のマイナスという経営状態、年度末に向かつて六千人体制へと動いている。しかしこれは、何よりも分割・民営化の構造的な問

## 団結を貫く闘いを!

(田中書記長基調要旨)

この一三年間で東日本と貨物の格差は、約八カ月間の差となっている。動労千葉は、強制配転者や予科生の士職登用問題などを含め、お互いの立場を理解して、闘いを通して団結を貫いてきた。

分割・民営化とは何だったのか? 何によって苦しめられているのか? 一三年前の政府・自民党と「JR体制」によってであり、今もそれが続いている。われわれは、分割・民営化という戦後最悪の攻撃を弾劾していく。来年の通常国会でのJR法案の提出など、貨物をどうするのか、来年二〇〇〇年は問われる闘いとなる。

五五歳以上の支払条件について、年末手当とともに要求してきた。昇給制度の改悪が西日本で来春実施されることなどを含め、来春闘を目的として五五歳以上の労働条件が焦点になる。大リストラ攻撃 - 産業競争力再生法は公然と首を切っていくものだ。これまでの世の中の仕組みでは通用しない。

われわれは、分割・民営化に断を下していく闘い、運転保安確立の闘い、五五歳以上の労働条件確立の闘いを今後さらに進めて行く。  
労働運動の分岐を促進し、闘う労働組合の全国ネットワークを作っていく闘いに起とう!

年末手当獲得 貨物低額回答打破  
12月ダイ改合理化粉碎

## 11・25動労千葉総決起集会



題であり、その矛盾とシステムが根底にある。民営化したのだからという論理はけっして成り立つものではない。今日の大リストラ攻撃の只なか、分割・民営化以降の一三年が正しかったという発想では要求する原典すらなくなる。来年通常国会に提出されるJR会社法案とは完全な民営化の断念と言っても過言ではない。五〇兆円の赤字国債発行、その内訳は整備新幹線着工で一八兆円となっている。事業団の債務は六〇年返済となるなど枠組みは崩壊している。三年目の現実には貨物会社をどうするのか会社の経営の自身によって賃金が変わるなどということとを許してはならない。東日本・貨物で働く労働者の業務の質

## 分割・民営化の矛盾転嫁を糾弾する!

続いて、貨物支部から、千葉機関区・的場支部長、新小岩支部・服部書記長が、貨物格差糾弾! 新フレイト21 貨物六千人体制粉碎に向けた闘う決意が訴えられた。

## 貨物の仲間の闘いを運転保安確立に向け共に闘い抜く!

次に、今次一二月ダイ改交渉報告が、川崎交渉部長より行われ、①、A T O S 導入後の度重なるシステムダウン、②、3052Mの副本線着発問題、③、信号機断時時の規程の拡大解釈の問題、等々について交渉経過が明らかにされた。  
続いて、田中書記長から基調提起(要旨別掲)が行われ、全支部からの決意表明後、JR貨物本社前に全体で移動し、怒りのシュプレヒコールを叩きつけた。